

衛生工学科創立60周年でセッション

京大環境衛生
工学研シンポ

古米東大教授の講演など

第40回京都大学環境衛生

生工学研究会シンポジウムが7月27・28日、同大校内で開催された。工学部衛生工学科創立60周年記念のセッション「未来に向けた環境工学の挑戦」をはじめ、水処理や上水道など5セッション、ポスターセッションなどが行われ、初日は約



古米教授



記念セッション「未来に向けた環境工学の挑戦」



ポスターセッションも大盛況

について討論した。

150人が参加した。記念セッション「未来に向けた環境工学の挑戦」では、ごみ処理や水

環境、環境衛生など各専門分野での課題などを紹介しながら、環境工学の研究・教育への展開など

田中宏明・京都大学教授による記念セッションの趣旨説明後、水環境では古米弘明・東京大学教授が「都市水システム・水環境に関する研究の展開に向けて」と題して講演。少雨年が増える可能性を指摘し、雨水利用

量の算定、地域ごとでサテライト処理した再生水利用などによる、中長期の必要水利用システム構築の必要性などを強調した。

田中教授と伊藤禎彦・京都大学教授がコーディネートを務めたパネルディスカッションでは、環境工学のあり方として、現場重視や社会貢献

がキーワードに挙げられ、「事業体が現場の問題点を明らかに」「若手が楽しく研究できる環境を」などの意見が出された。

また、水処理セッションでは、「下水処理場の電力自立に向けての検討」(メタウォーター)として、消化ガス発電における電力自給率の向上施

策、上水道セッションでは、「消毒副生成物への変換を考慮した化学物質管理」(国立保健医療科学院)として、人為由来化合物からのハロ酢酸生成能の評価などを紹介。

ポスターセッションでは、「超音波可溶化処理による下水汚泥中シロキサン除去」(京都大学)などが展示された。

「環境マインドで未来を拓け」発行
京都大学学術出版会
京都大学学術出版会は「環境マインドで未来を拓け いのちをまもる(生を衛る) 工学の60年」(環境工学への誘い)刊行委員会編)を発売した写真。同大学工学部衛生工学科創立60周年を踏



まえ、その歴史や現在などを分かりやすく紹介している。

達からの招待状▽京都大学の環境工学の現在の4部で構成。A5判並製の342ページで、定価は本体2000円(税別)。全国の書店や大学生協などで購入できる。注文・問い合わせは同出版会(電話075-761-6182 メールsalco@kyo-to-u.jp.or.jp)へ。